



第16回若手医師のための家庭医療学冬期セミナー

VOD-07「骨折ハンター」

【講師】

増井 伸高（札幌東徳洲会）

「あの患者さん、骨折していたよ…」

レントゲンをとると、見逃しリスクは少なからずついてくる。

非整形外科医にとって骨折レントゲンは3種類しかない。①明らかな骨折、②微妙な骨折、③見えない骨折の3つだ。①は診断がつき困らない。初期対応は診断後に調べることで可能だ。問題は②と③、ピットフォールやマネジメントは事前に知っておくべきだが、系統的な学習をせずに患者さんの前へ立つ医師は多い。そこで研修医と年間数千枚のレントゲンに暴露されている救急医が骨折対応学を完全伝授。Part1では誤診となった高齢者の骨折レントゲンを千本ノックのごとく供覧する。受講者は講義後に次の能力を完全に身に着ける。

ハンター能力1：微妙な骨折も的確に指摘しマネジメントできる

ハンター能力2：レントゲンで見えない骨折を暫定診断しマネジメントできる

講義終了後は自信をもって整形外科外傷の初期対応が出来ることを確約する。